

Asia Indicators

発表日: 2023 年 7 月 14 日 (金)

中国、6 月貿易統計は輸出入ともに下振れが続く (Asia Weekly(7/7~7/14))

～世界経済の減速や米中摩擦などが影響の一方、ロシアや新興国との関係深化の動きも顕在化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/7(金)	(台湾) 6 月輸出 (前年比)	▲23.4%	▲13.3%	▲14.1%
	6 月輸入 (前年比)	▲29.9%	▲16.7%	▲21.7%
7/10(月)	(中国) 6 月消費者物価 (前年比)	+0.0%	+0.2%	+0.2%
	6 月生産者物価 (前年比)	▲5.4%	▲5.0%	▲4.6%
7/11(火)	(フィリピン) 5 月輸出 (前年比)	+1.9%	--	▲20.2%
	5 月輸入 (前年比)	▲8.8%	--	▲15.0%
7/12(水)	(韓国) 6 月失業率 (季調済)	2.6%	--	2.5%
	(ニュージーランド) 金融政策委員会 (政策金利)	5.50%	5.50%	5.50%
	(マレーシア) 5 月鉱工業生産 (前年比)	+4.7%	+0.5%	▲3.3%
	(インド) 6 月消費者物価 (前年比)	+4.81%	+4.58%	+4.31%
7/13(木)	(韓国) 金融政策委員会 (政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	(中国) 6 月輸出 (前年比)	▲12.4%	▲9.5%	▲7.5%
	6 月輸入 (前年比)	▲6.8%	▲4.0%	▲4.5%
7/14(金)	(シンガポール) 4-6 月実質 GDP (前年比・速報値)	+0.7%	+0.6%	+0.4%

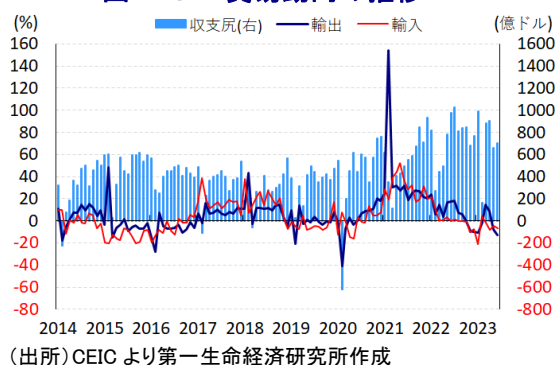
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[中国]～世界経済の減速懸念の高まりが輸出の重石となっている上、輸入の足かせとなる悪循環が続く～

13 日に発表された 6 月の輸出額は前年同月比 ▲12.4% と 2 ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月 (同 ▲7.5%) からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も 3 ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である機械製品の不調が続いており、コンピュータ関連や携帯電話関連のほか、半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が弱含む動きが続いており、世界経済の減速懸念の高まりが重石になっている。その一方、国内における自動車販売が低調に推移するなかで輸出が拡大する動きがみられるほか、鉄鋼製品や石油製品などの輸出も底堅い動きをみせており、海外に活路を見出す動きも続いている。国・地域別では、米中摩擦の激化や関係悪化を反映して米国向けが下振れしているほか、EU など先進国向けも弱含む動きが続いている上、ASEAN などアジア新興国向けも力強さを欠く一方、ウクライナ情勢の悪化を受けて関係深化が続くロシア向けが大きく上振れしているほか、アフリカ向けや中南米など新興国向けも底堅いなど、対照的な動きがみられる。一方の輸入額も前年同月比 ▲

6.8%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移している上、前月（同▲4.5%）からマイナス幅も拡大している。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きが続いている。輸出の頭打ちを受けて素材・部材などに対する需要が弱含む動きをみせているほか、原油をはじめとする商品市況の調整の動きも輸入額を下押ししている。ただし、商品市況の調整を受けたマージン拡大を反映して原油輸入量は大きく上振れしているほか、鉄鋼価格の上昇を受けて鉄鉱石の輸入量も堅調な推移をみせており、今後は中国国内の需要回復が遅れれば、アジア新興国などで安価な鉄鋼製品や石油製品の輸出が拡大して市況悪化を招く可能性には注意が必要と考えられる。結果、貿易収支は+706.19億ドルと前月（+657.89億ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 CN 貿易動向の推移



[インド]～インフレ率は5ヶ月ぶりの加速に転じるも、物価を巡る動きは財、サービスでまちまちの様相をみせる～

12日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+4.81%となり、前月（同+4.31%）から伸びが加速したもの、4ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標（4～6%）の範囲内で推移している。前月比は+1.01%と前月（同+0.56%）から上昇ペースが加速しており、国際原油価格の調整やロシア産原油の輸入拡大などを追い風にエネルギー価格は落ち着いた推移が続く一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇の動きを強めるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+5.12%と前月（同+5.05%）から加速しており、インフレ目標の推移内で推移するも、インフレ率とともに5ヶ月ぶりに伸びが加速に転じている。ただし、前月比は+0.09%と前月（同+0.33%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格が落ち着いていることを反映した輸送コストの安定に加え、通貨ルピー相場も落ち着きを取り戻すなど輸入インフレ圧力が後退していることを受けて幅広く財価格は安定している。また、経済活動の正常化が進んでいることを反映してサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、昨年来の中銀による利上げ実施を受けて不動産価格に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、サービス物価を取り巻く環境に不透明感が高まる兆しもうかがえる。

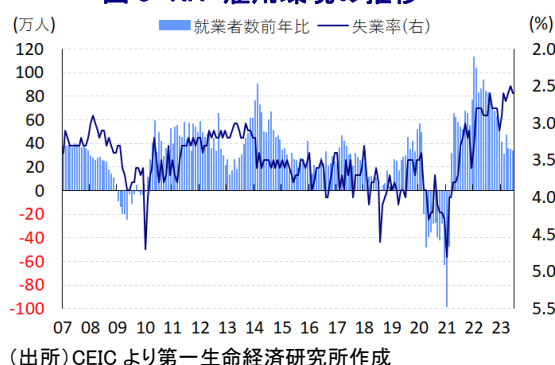
図 2 IN インフレ率の推移



[韓国]～若年層のみならず高齢層でも雇用底入れの動きに一服感、非正規雇用を中心に調整の動きが再燃～

12日に発表された6月の失業率(季調済)は2.6%となり、過去最低を更新した前月(2.5%)から0.1pt悪化している。失業者数は前月比+2.9万人と前月(同▲2.5万人)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、年代別でも60代以上の高齢層のみならず、30代や40代の働き盛り世代に加え、20代や10代など若年層でも拡大する動きが確認されるなど、幅広い年代で失業者数が増えている。一方の雇用者数は前月比▲4.8万人と前月(同+9.2万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、年代別でも30代や40代など働き盛り世代のほか、20代を中心に雇用調整圧力が強まっているほか、60代以上の高齢層でも調整の動きが続いている。雇用形態別では正規雇用に底堅い動きがみられるものの、非正規雇用を中心に調整の動きが強まるなど、厳しい状況が続いている。労働参加率は64.4%と前月(64.4%)から横這いで推移しているものの、労働力人口は前月比▲0.2万人と前月(同+0.7万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じており、年代別では20代で最も減少しているほか、30代や40代など働き盛り世代でも減少が続くなど労働市場から退出する動きが続いている。経済活動の正常化の動きは進んでいるものの、世界経済の減速懸念の高まりなど外需を取り巻く環境が厳しさを増していることを受けて、若年層や非正規雇用者を中心に雇用を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあると判断出来る。

図 3 KR 雇用環境の推移

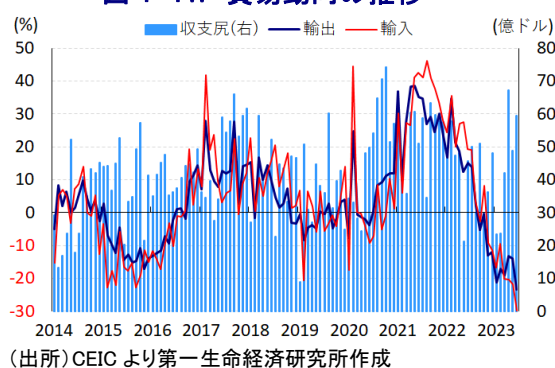


[台湾]～世界経済の減速懸念の高まりが輸出の重石となり、輸入の足かせとなる悪循環が続いている模様～

7日に発表された6月の輸出額は前年同月比▲23.4%と10ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲14.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲6.6%と前月(同▲4.8%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強める展開が続い

ている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、化学製品関連、鉱物資源関連など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かる展開が続いている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けのほか、アジア新興国向け全体に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、米国や欧州、日本向けなど先進国向けも総じて頭打ちの動きを強めるなど、世界経済の減速懸念が強まっていることを反映している。一方の輸入額は前年同月比▲29.9%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲21.7%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲9.3%と前月（同▲1.5%）から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きが続いている。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して、素材・部材などのほか、資本財など幅広い分野で輸入に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、国際商品市況の調整の動きも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は+59.55億ドルと前月（+48.86億ドル）から黒字幅が拡大している。

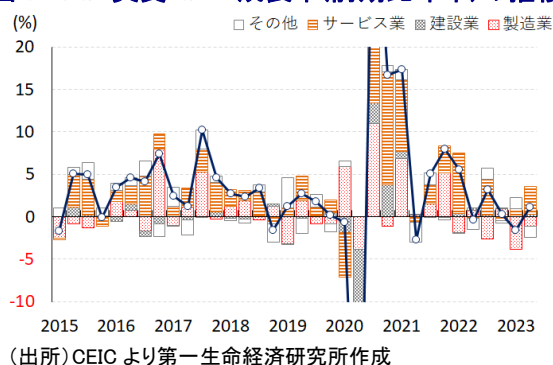
図4 TW 貿易動向の推移



[シンガポール]～製造業の生産は弱含む展開が続くも、建設業やサービス業の生産拡大で景気後退を回避～

14日に発表された4-6月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+0.7%となり、前期（同+0.4%）から伸びが加速している。前期比年率ベースの成長率は+1.12%と前期（同▲1.59%）から2四半期ぶりのプラス成長に転じており、テクニカル・リセッション入りを免れている。分野別では、世界経済の減速懸念の高まりを受けた世界貿易の縮小の動きが重石となる形で製造業の生産に下押し圧力が掛かる展開が続く一方、公共投資や民間部門による設備投資の進捗を反映して建設業の生産は底入れしているほか、サービス業の生産が大きく押し上げられていることが景気後退局面入りの回避を促している。なお、サービス業については経済活動の正常化が進んで小売・卸売関連の生産が拡大しているほか、世界的な人の移動が活発化を受けて観光関連の生産も拡大の動きを強めている上、世界的な金融取引の活発化も追い風に金融関連の生産も押し上げられるなど、全般的に堅調な動きをみせている。

図 5 SG 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



[マレーシア]～幅広い分野で生産拡大に転じるなど、頭打ちの動きが続いた生産活動に反転の兆しが出ている～

12日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+4.7%となり、前月（同▲3.3%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+7.36%と前月（同▲5.59%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じているほか、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど頭打ちが続いた流れに反転の兆しが出ている。国際金融市場における市況の調整の動きを反映して弱含む展開が続いた天然ガスや原油など鉱業部門の生産が底打ちしているほか、主力の輸出財である電子部品関連や自動車をはじめとする輸送用機械関連など製造業部門の生産活動も底打ちを果たすとともに、経済活動の動向と連動しやすい発電量も拡大に転じる動きが確認されるなど、足下の景気の底堅さを反映していると捉えられる。

図 6 MY 鉱工業生産の推移

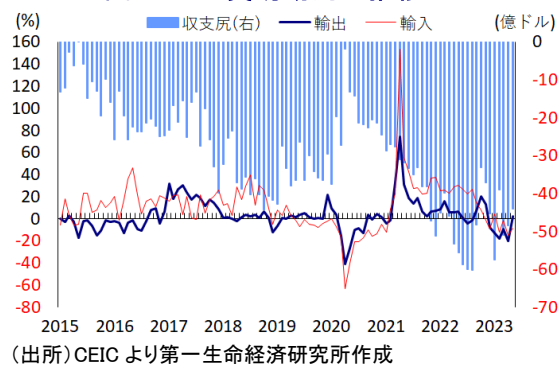


[フィリピン]～幅広く輸出に底入れの動きが確認されるとともに、輸入も底入れの動きを強める動きがみられる～

11日に発表された5月の輸出額は前年同月比+1.9%となり、前月（同▲20.2%）から6ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、農産品、鉱物資源など幅広い分野で輸出が拡大するなど底入れの動きが確認されている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けが底打ちするとともに、ASEANや韓国・台湾などアジア新興国向けも底入れしている上、日本や米国、欧州など先進国向けも総じて底入れの動きを強める動きが確認されている。一方の輸入額は前年同月比▲8.8%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲15.0%）からマイナス幅は縮小している。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じ

るなど輸出同様に底入れの動きを強めている様子がうかがえる。輸出が底入れの動きを強めていることを反映して半導体をはじめとする電子部品など素材・部材関連の輸入が底入れの動きを強めているほか、機械製品をはじめとする資本財、消費財の輸入も幅広く底入れするなど、全般的に輸入が押し上げられている。結果、貿易収支は▲43.96 億ドルと前月（▲48.43 億ドル）から赤字幅が縮小している。

図 7 PH 貿易動向の推移



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。